広報 かじき

全ご家庭に，もれなく配布

第187号

46.9.1発行

発行　鹿児島県姶良郡加治木町役場

編集　総務課文書係

印刷　吉屋印刷所

台風二つ

洪水に　土堤少し見え
草青く　牧　笛郎

▽…十九号台風の雨による被害総額は二億三千万円となりましたが、人の命にかかる事故がなく、さいわいなことでした。

▽…ヤレヤレと、跡かたづけもまだすまぬうちに台風二十三号の追い打ち。大型台風との予報で、刻々と入る情報に神経をとがらせていましたが「最悪の状態を脱した」と報ずる夜半のニュースに、ホッとなさったことでしょう。だが、これからが台風シーズン、油断は禁物。早めに万全の対策を

▽…長かった夏休みも終りました。休み明けのこどもの生活をよく観察して、とかくダラケがちな休暇くせを早くなおしましょう。

さあ、きょうから2学期だ。（柁城小で）

■　メ　モ　　人口……18.694　　男……8.705　　女……9.989　　世帯……5.793（8月1日現在）

被害の総額二億三千万円に

暴風より豪雨による災害

全町を流れる大小の川やミゾがあふれる

さる八月四日から五日にかけて県下を襲った台風十九号による、本町の被害総額は二億三千万円となりました。

こんどの台風十九号は速度がおそいため、長時間にわたって吹き荒れ、かなりの被害が予想されましたが、直接、風による被害は昭和四十四年襲来の台風九号のときより少なく、関係者をホッとさせました。

ところが、台風が北上し去ったあとの午後から急に激しく降り出した豪雨による、こう水のために町内全域に田の流失や冠水、床上、床下浸水などの被害が続出しました。

とくに五日の夕刻、辺川地区や小山田河川流域のはんらん、高井田、春日付近の住家や団地が、濁流の危険にさらされ避難、収容するなど一時あやぶまれ、翌六日は小山田の道路が決壊、流失したために、上水道の送水本管が破壊され、朝から午後まで断水するなどこれまでにない大被害となりました。

コンクリート橋も片方は水に流される（辺川）

どうなることかと濁流を見る（高井田）

こうした中で、関係地元のみなさん、町消防団員、役場職員など豪雨の中、濁流の中で、くい打ちや土のう積みなどの応急活動に協力、出動して大事を防ぎました。

全町を流れる大小の河川やミゾが、はん濫し、橋を流し、大きな石や泥で田を埋め、堤防をこわすなどの大災害が発生したにもかかわらず、一人の死者も重傷者もなかったことは、さいわいなことでしたが、貴重な田や住家などに被害を受けられたかたがたに対して心からお見舞い申し上げます。

町民のみなさんに、いろいろとご迷惑や不便をおかけしましたが家や家族をおいて、夜、昼となく警戒や応急処置、復旧作業に出動協力された、これらのかたがたの活動と労苦があったことも、忘れてはならないことです。

被害額は次のとおりです。

〔人〕……軽傷一人
〔住家〕……一部破損、床上下浸水など八十八棟
〔非住家〕……全壊、一部破損など四十四棟
〔農産物〕…水稲など一億一千万円
〔畜産〕……七十万円
〔土木施設〕……六千八百万円
〔農水産業施設〕……四千八十万円
〔文教施設〕……七十万円
被害総額　二億三千万円

町では県とも交渉して、復旧対策をたて、緊急なものから工事をすすめることにします。なお「激甚法」にかけてもらうよう、西部四カ町長が共同で県にもお願いしていますが、局地的にしか、かからぬもようです。

激甚法＝「激甚災害に対処するための特別財政援助等に関する法律」

臨時町議会から

臨時第四回町議会は八月二十四日、町議事堂で開かれ、十九号台風と豪雨による災害復旧費の専決処分の報告と二つの工事請負の承認や議決を行ないました。

□専決処分の報告を承認

災害復旧費として百五十一万円を予算に追加し、応急措置の費用としたもので、議会の承認を得ました。内訳は次のとおりです。

○道路や橋、河川八十二万八千円
○農業用施設　三十三万九千円
○学校施設　三十四万四千円

□一種公営住宅の建設

簡耐平家建の住宅を十二戸、建てるもので、町内の武田組が一千一百七十万円で着工。

□港町黒川線の道路新設

町内の港町と反土黒川を結ぶ道路の新設工事で、町内の第一建設が一千一百四十七万円で着工。

敬老の日

老人を敬い長寿を祝おう
話せる老人になろう

町内の最高齢者坂元ムメさん（97）

九月十五日は「敬老の日」であり、国民の祝日としてみんなで祝う日です。

いうまでもなく、この日は多年にわたって社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝うとともにとかく孤独でみじめな生活に陥りやすい老人の生活を明るく、ゆたかなものにするため、すべての人が老人福祉についての関心と理解を深め、平和な家庭、明るい社会をつくり、また、老人自身も時代とともに生きる意欲を盛り上げようとするものです。

最近、老人をとりまく社会環境の複雑化などのため、ひとり住まいの老人が命を絶つなどの暗いニュースが、新聞やテレビなどで報道されています。老人問題は、広範囲な領域に拡がっており、一朝一夕では解決のつかない問題が多いのが実情です。

そこで家庭内における老人の処偶一つについても、若い人たちの協力が必要ですし、老人自身の気持ちの持ちかたいかんによっても大きく変ってくるものです。

ただ共通にいえることは、明るい家庭、明るい社会を築くための努力をおしまぬことであり、老いも若きも福祉国家という名に恥じないだけの生活が保障されていかなければならないことです。

▽…老人と若い人が家庭、職場地域社会で話し合い、お互いの立場を理解し、尊重しあって協力することに努めよう。

▽…家庭の中で、老人にふさわしい役割りを与えるよう、みんなで考えよう。

▽老人に慰問と激励のたよりをおくろう。

▽…老後の生活設計を考え、所得や医療などの生活保障をたしかめることを推し進めよう。

▽…健康に留意し、時代感覚を身につけて、話せる老人になるよう心がけよう。

敬老の日にあたって

町長　曽木隆輝

お年よりのみなさん、ご長寿おめでとうございます。

かつては人生五十とか、年齢七十古来稀なり――と申しましたが今日、八十歳以上も、そう珍らしいことではなくなり、お元気で働くかたも、おありでうれしく思います。

世の中は大へん進歩し、移り変りも激しくなりました。幼いころお月さまは絶対に人間の手のとどかない所にある神か仏の住み家であるような話しを信じていましたお米一粒、無駄にすれば目がつぶれるなど、母たちはきつく教えました。

人間の知恵は月まで数日かかって行けるようにし、月は砂や岩石のかたまりであることもわかりました。あれほど大事なお米は余って、もてあます時代になりましたが、ものすごく動いています。五十年前、本町の一年間の予算は十五万円ぐらいだったのが今日、六億円にもなっています。空港や縦貫道などと、また大きく変化するでしょう。こんな激しい流転の中で、かえてならないものが、いくつかあると思います。その一つは長老に対する尊敬といたわりの気持ちだと思います。

私どもの住む加治木も、その日その日は別に変りもないようですが、

年をとりますと体力が衰える。頑固になる。ぐちをこぼす。したがって他から、やっかいあつかいにされ勝ちです。なるべく平静に身も心も保ちたいものです。

五十年より百年、百年より千年たった大木は、それだけの価値があります。それは経験した歴史を年輪としてもっているからです。年よりの経た歴史は、すなわち経験は、若い者の教訓であります。その尊い体験を後輩は道しるべとすべきでしょう。

お年よりのかたがたは、もっと平和な楽しい時代がくることを信じ、いつまでもお元気で、お過ごしください。

安全メモ

老人を交通事故から守ろう

おとしよりを交通事故から守るため、次のことに気をつけよう。

車を運転するかたに

○道路を横断中のとしよりを認めたときは、一時停止か徐行をしましょう。

○歩行中のとしよりの側方を通るときは、としよりの動きによく注意して、安全な速度で運転しましょう。

家族のかたに

○としよりのかたが、交通ひんぱんな道路を歩行し、横断するときは、できるだけ家族のかたが付き添ってあげましょう。

○としよりが外出される際は家族で、まず交通安全に必要なことを、そのたびごとに教えよう。

○からだの不自由なとしよりには、白いつえを持たせましょう。

◇ おかあさんのページ　ママのページ

すべての子どもが、健やかに生まれ、心もからだも、ともにたくましく成長することは、だれしも願っていることです

鹿児島県と当町では、次の世代を引き継ぐ赤ちゃんが、健やかに生まれて、たくましく成長するような対策をたてて、これを「太陽の子運動」という名まえで推し進めています。

この運動は、次のような理由によって始められたものです。

▽…本県の子どもの体位は、全国でも最下位で劣っていること。

▽…妊産婦の死亡率が全国平均の二倍もあり、乳児死亡も多いということ。

▽…他県にくらべて、生まれながらの精神薄弱児や肢体不自由児が、百人にひとりは多く生まれているということ。

▽…幼少期の家庭や身のまわりの生活環境が、その人なりにとって非常に大きく影響するが、これが決して満足すべき状態にないということ。

太陽の子を みんなで育てよう

太陽の子シリーズ

①

太陽の子運動 五つの柱

次の世代は、いま生まれた赤ちゃんやまさに生まれ出ようとしている赤ちゃんのものです。

それだけに、若いお母さんがたへの期待は大きく、太陽のように強く、明るく生き生きとした子どもを生み育ててもらうことが、太陽の運動のねらいなのです

そのために次の五つを、この運動の大きな柱として、推し進めていくこととしています。

よい子を生むためには

よい子を生むためには、母親が病気をしないことと、元気であることが一番大切です。そのために未婚者に結婚生活に必要な生理的知識と妊娠中の母親に、自分の健康を守らせるための知識をもってもらい、あわせて妊産婦の死亡をできるだけなくし、頭脳や手足の不自由な子どもが、できるだけ生まれないようにつとめることです。

じょうぶに育てるためには

おもに子どもの健康を守り、ますます健やかに育てるために、乳幼児の頭脳の働きや体格に異常なところはないか、どうかを早めに発見することで、健康相談をうけることです。

母と子の健康を地域ぐるみで守るには

地域社会の人々が妊婦やお母さんたちに、暖かいまなざしと手をさしのべてやれば、太陽の子運動はよりいっそうの実を結ぶことでしょう。

町役場に妊娠届出をした人は、すべてカードに記入され、その後の健康状態を見守って行くことにしています。また必要なお母さんや赤ちゃんには、牛乳やミルクが与えられています。

幼児教育ではどうすればよいか

幼児をもつお母さんを対象に、家庭教育学級、幼児学級を開設して、人間が成長する段階で一番重要な時期にある幼児をもつ母親に対して、幼児の育てかたの心がまえを認識してもらうことにしています。

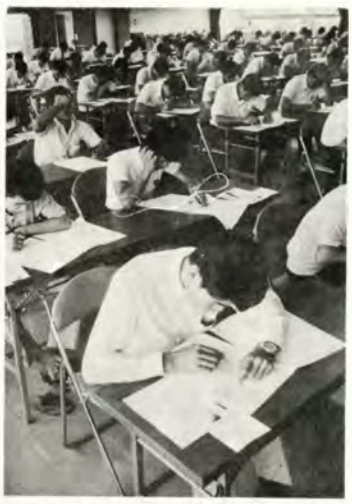
子どもを三人はもちましょう

子どもの人間関係からみて、理想的には三人は必要ということです。子どもは何人がよいかは、それぞれの家庭によって違うと思いますが、正しい家族計画のもとに三人までは——と、いう呼びかけです。

このように「太陽の子運動」は、県の「二十年後のビジョン」づくりの基礎をなす県民運動として順調に、その活動を始めています。

そこで、さらに強く推し進めるために次回から〈太陽の子シリーズ〉として十七回にわけて掲載しお知らせすることとします。

話題あれこれ



西部消防組合
消防士の採用試験
応募者なんと採用の四倍

加治木、姶良、蒲生、溝辺の四ヵ町でつくっている姶良郡西部消防組合（管理者・加治木町長）では、広域消防行政への事業をすすめていますが、このほど消防士を採用するため、関係四ヵ町から募集しました。

願書の提出数が百二十一人で、三十人ほどの採用に対して約四倍の競争率となり、このほど町福祉センター大ホールで筆記試験が行なわれました。＝写真＝

試験は午前九時から午後二時半まで、国語、数学、一般常識作文の四科目について行なわれましたが、受験者の年代も十八歳の青年から四十歳の壮年までとあって、同一問題に顔の表情もなかなか複雑のようでした。

採用が決まると、県の消防学校に五カ月入校して消防士としての特訓をうけたのち配属されます。このうち救急科は、さらに一カ月の特訓となります。

来年からは新卒者（高校卒）だけの採用を予定しており、昭和四十八年度には、本部の事務職員も含めて、総員六十二人ぐらいとする計画です。

休耕田を利用
チビッコ運動場
高井田部落

町内の高井田部落に、休耕した一地主さんの厚意でチビッコ運動場がつくられ、部落のこどもたちに開放されています

＝写真＝

この運動場は、町営温泉に行く道路ぞいの田んぼで面積は約十六アール（一反六畝）

米の生産調整で休耕した田んぼを部落の役員が、地主さんに相談して運動場にあてたものです。

これまで部落のこどもたちは遊び場がなく、元気をもてあましていましたが、この思わぬ運動場の出現に約五十人の児童、生徒や付近の幼児たちは大喜び。ソフトボールなどで元気に、この夏休みを過ごしていました。

夕方は、こどもたちに交じってバットを振り、ボールを追うパパさんたちの珍プレーなども見られときおり町営温泉に行き交う人たちの足をとめさせています。

ソフトは負けて残念
ほいなあ太鼓踊りで

▽…このほど国分市で行なわれた消防団の姶良伊佐支部のソフトボール大会に、加治木からも各分団えりぬきの精鋭が出場まず強豪の吉松町と対戦。

▽…合計七点を許した三回の裏の攻撃、ノウアウト満塁。このとき加治木のテントから、だれが持ち込んだのか鐘と太鼓がキャン・キャン・ズーと鳴り出した

▽…突然の鳴りものに気をよくした加治木勢、たちまち三点をばん回。だがこのあとは応援もむなしく九対三でゲームセット。

▽…前日から張り切って来たくだんの鐘打ちどんと太鼓打っさあたち「かったあ、もの足りんどね…」とうとうグラウンドで打っちゃげと相成った＝写真＝

▽…ときならぬ音に他市町の団員たちがワンサとつめかけて見物。だれかがコッソリと「加治木はソフトよか、太鼓踊りをした方が良かったこてね…」

ちゃぐんのばなし

水銀灯を寄贈
ロータリークラブ

ロータリークラブ（会長＝安満了智）は、本年の社会福祉事業のひとつとして、町防犯協会と打ち合わせ、加治木高校の西側と加治木工業高校の正門の所に水銀灯を寄贈しました。

維持費は両校で負担、街を明るくすることに役立ててもらうことになりました。

■ 九月の行事とお知らせ　　みなさまのご協力を ■

年一回は必ず 健康診断を

〔がん征圧月間〕

九月一日から二カ月間全国的に「がん征圧月間」が始まりました

日本人の死亡原因中、第二位を占めている〝がん〟は、もっとも働き盛りにある四十歳から急激にふえており、自覚症状がなく、症状があるようになってからでは手遅れだと言われてきました。

しかし最近では、医学の進歩によって早期に発見し、早期に治療すれば健康も取りもどすことができるようになりました。

がんは、からだのあらゆる部分にできるといわれています。日本人には一番多いのが胃がんです。次に女性に多いのが子宮がんですが、そのほか肝臓がん、肺がんなどが男女ともに多いようです。

日本対がん協会では、次のような症状に気がついたら、直ちに健康診断を受けるよう呼びかけています。

がんの早期発見十カ条

①…原因がわからず痛みもないのに、やせてきて顔色が悪くなり貧血してくることはないか（すべてのがん）

②…ながらく胃腸の具合が悪くないか、食欲はおとろえていないか（胃がん）

③…おりものがふえたり、血がまじったりしないか、不定期出血や接触出血はないか（子宮がん）

④…乳房のなかに、ながく消えないシコリはないか（乳がん）

⑤…ものを飲みこむとき、つかえるような気がしないか（食道がん）

⑥…便通の調子がくるったり、血がまじったりしないか（大腸がん・直腸がん）

⑦…せきがながく続いたり、たんに血がまじったりしないか（肺がん）

⑧…声がかすれて、ながく治らないことはないか（咽喉がん）

⑨…口の中や皮膚に、治りにくい潰瘍はないか。（舌がん・皮膚がん）

⑩…尿の出がわるかったり、血がまじったりしないか。（腎臓膀胱、前立線がん）

三十五歳をすぎたら、年一回は必ず集団検診をうけましょう。

野犬一掃運動

不用犬は保健所へ

九月一日から三十日までの一カ月間は「野犬一掃運動」が、全国いっせいに展開されます。

犬の放し飼いによる無責任な飼育、不用になった犬を捨てることなどから、野犬による咬傷（かみつかれる）事故や人畜などへの被害が各地で多発しています。

この運動期間を通じて、犬による人畜への被害が発生しないよう努力するとともに、恐しい狂犬病の予防をも、みんなで推し進めたいものです。

＜登録＞犬を飼うときは、必ず町役場で登録し、登録済みの鑑札を犬の首輪につけること。

＜予防注射＞犬は必ず、年二回（春秋）狂犬病の予防注射をうけ注射済み票を犬の首輪につけること。

＜係留＞犬は放し飼いにすると放浪癖をつけ、他人に迷惑をかけるので常にオリに入れるか、クサリなどでつないでおくこと。

＜散歩＞犬を連れて歩くときは必ずクサリにつないで、いつも飼い主の足がわを歩くようにしつけること。

＜不用犬＞いらなくなった犬は必ず保健所で引き取ってもらい、捨てることは絶対にやめること。

＜注意＞犬が人をかんだときは必ず獣医師の診断をうけるとともに、保健所へ届け出ること。

駅前ロータリー設置 美化とあわせ小型のものを

駅前のロータリー建設は、交通対策から反対だ――と、錦江町のかたから投書がありました

これについては数年前から賛否両論がありましたので、当局としても慎重に検討の結果、踏み切つたものです。

駅前広場は、四本の県道や町道が集まっていて、逆にいえば放射状になっていて人と車の交通整理はなされ得ない形です。先般来事故もあり、なんらかの形でロータリーを設くべきだとの内外の意見が強く、美化とあわせて小型のものを作ることにしたものです。

ご意見は、ありがたくお受けいたしました。

福祉年金の受給手続き

福祉年金は七十歳以上の人、重度の身体障害者、夫や祖父などを亡くして、母子、準母子の状態にある人に支給される年金です。福祉年金の受給手続きは次のように行ないます。

福祉年金が、受けられるようになった人は、町役場に請求書を出すと、受給資格のある人には、国民年金証書が交付されます。受給資格のある人は、早めに手続きをしましょう。

福祉年金は、その国民年金証書によって郵便局の窓口で支払われます。町役場に請求書を出すとき年金の受給に一番便利な郵便局を選んで申込んでください。

写真コンクール 9月30日締切り

郵政省では、次の要領で写真コンクールを行なっています。

○題材および内容＝写真の一部に簡易保険の積立融資施設が入っているもので、季節感があり、詩情あふれるもの、または地方色ゆたかな作品

○作品の大きさ＝カラー写真はスライド35ミリ以上。白黒写真はキャビネ版以上。

○締切日＝九月三十日、加治木郵便局の保険課へ提出。

○その他＝対象となる融資施設や応募についての詳しいことは、郵便局の窓口（保険係）でお問い合わせください。

新しい保険が誕生

郵便保険では、九月から二つの保険を発売します。学資保険と長生き保険で、どちらも祝い金がついています。詳しいことは郵便局へおたずねください。

打つ　鳴らす　とぶ

はずんだ太鼓踊り

四つの大字から113人が出場

年中行事として三百七十余年の歴史をもって踊り伝えられている郷土民芸、本町の太鼓踊りは、ことしもお盆明けの八月十六日に行なわれました。

午前八時に全員（反土、木田、西別府、小山田総勢百十三人）が春日神社に集合、各大字ごとに庭踊りを神前に奉納したあと、午前十時から仮屋馬場の打上げと庭踊りが披ろうされました。

仮屋馬場の打上げは「テコ踊いなあ、かいやん馬場ん、打っちゃげ」と、古くから踊りの好きな人は絶対に見のがさないと、言い伝えられるほど勇壮なもので、幼稚園から高校の正門までの旧城趾の石垣は絶好の見物席とあって、早朝からたくさんの人だかり。この前を四つの大字が、つぎつぎに鐘の音色を変えて踊り、とび、観衆の目を楽しませていました。

数年ぶりかと思える帰省客が、

「やっぱり太鼓踊りは良かな…見とっても足が、おもわず浮き出すわ。ホントニ……。」

と、母親らしい年寄りに話していました。

吉左右踊りの道案内をするオドケ役

だが、こうして踊る太鼓踊りも青年が少ないため、各大字とも陣容をととのえるのに毎年、苦労があるとか、ことしも踊り手の年代層を見てみると、どの大字も四十歳代以上と、高中学生以下で占められているようです。

とくに県の無形文化財に指定されている西別府の吉左右踊りでは出場した十八人のうち男はわずか六人、あとは十二人の女生徒が、大きな鼻ヒゲをつけて出場、みごとに男役をやりこなすなど、このピンチをきりぬけ、大勢の観客の目を驚かせました。

伝統ある本町の郷土民芸、太鼓踊りは、こうして時代の移り変りとともに、男や女に受け継がれながらも絶えることなく、これからもずっと踊り伝えられていくことでしょう。

踊るパレードや歌謡ショーに

観衆もウットリ

張切る青年部員グループ

台風十九号の襲来で、関係者たちをヤキモキさせていた第五回町民夏祭り大会は、八月六、七日の両日、網掛公園付近と加高校グラウンドで催されました。

ことしは祇園祭と組み合わせて行なわれ、例年にない人出が予想されましたが、台風と豪雨の被害が大きかったためか以外と観衆の数も少ないように見うけました。

それでも七日の午後、パレードが始まるころから国道ぞいや蒲生田通りには観衆がつめかけ、総勢六百二十人によるハンヤ節やおはら節の踊りのパレードに見とれていました。

夕方から加高校グラウンドで、いろいろの催しものや花火をまじえた青山和子歌謡ショーがあり、二日間にわたることしの夏まつりを終えました。

今月の納税　固定資産税（第三期分）

大事な話しもパー

笑う人の前で電話をするな

電話中に、そばの人たちが話しをしているときは、よほどの注意が必要となりました。さいきんの電話器の感度は非常によくなっています。少なくとも四メートル四方のエリヤの声や音などはバッチリ入ってきます。

重要な取引きの話しで、微妙な点にさしかかったとき、隣り近所の人たちの大笑いの声がタイミング悪く入ったため、商談がこわれてしまった例もあります。だからほかの人が電話にでているときも、じぶんには関係がないと思って、勝手なおしゃべりはしないことです。

また、電話中に相手を待たせて内輪で打ち合わせをするときは、しっかりと送話口を押さえてから値だんやスケジュールなど、先方に聞こえてはまずいときには、とくに気をつけたいものです。

ナイショ話が、つつ抜けになってしまったために、大切な相談がこわれてしまうことだってあります。

中央チーム優勝
町内親子ソフト

八月一日開かれた町内親子ソフトボール大会は二十二チームが出場、中央チームが優勝。
①中央　②萩原　③網掛・性応

優勝した中央親子チーム

優勝
婦人バレー　陸上競技

八月七日、隼人町で開かれた姶良地区体育大会で、本町の婦人バレーボールと陸上競技が優勝。総合成績は第四位。

郡大会で優勝したバレーチーム

一般社会人ソフト大会

さる七月二十五日開かれた町体協主催の一般社会人ソフトボール夏季大会には町内から十一チームが出場。成績は次のとおり。
①町役場B　②ファイターズ
③コカコーラ・須崎青年会

香典返しを寄付
町社会福祉協議会へ

香典お返しのかわりに、ご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげます。

金額　ご遺族　故人
三千円　鹿屋市　川原玉雄（母ユキエ）
三千円　於里　森永キクエ（夫慶市郎）
五千円　端山　坂元克子（父栄次）
五千円　市来原　内村節子（夫信夫）
三千円　塩入　垂水豊（二女智恵子）
三千円　提水流　中村ツル子（夫誠輔）
五千円　石野　石野三好（妻ハツギク）
二万円　中塩入　小浜春夫（父勲）
一万円　西反土　本中野アツミ（夫勉）
三千円　辺川下　大宮路七左ェ門（妻ユカ）
一万円　岩原西　迫村豊
親せき一同（母チヨ）
三千円　於里　瀬之口重治（母ミネ）
三千円　下嶽　山口貞雄（妻アキエ）

育英奨学資金へ

三万円　中塩入　小浜春夫（父勲）
▽八月十九日までの、ご寄付を掲載しました。

秋の全国交通安全運動
〈九月二十七日～十月十日〉

随想
闇中模索
曽木隆輝

あなたがたは、なつかしいお家を離れ、自動車の騒音も汽車の気笛も聞こえない。ホコリもない、この山頂に来ている。夜のとばりがおちて、しかも霧が立ちこめてお友だちの姿もよくは見えない。ただキャンプファイヤーの残り火が赤い焔をチョロチョロ出しているのを見守っている。

夏休みも残り少くなった。学校のことを思っているだろう。やかましい先生やいじ悪いお友だちもいたかも知れない。勉強しなさいと、うるさくいうお母さん、口ぐせに叱ってばかりのお父さんであるかも知れない。そんな人たちの顔をいま眼の中に浮かべているだろう。こうして山の中に、暗闇の中にいて物思いにふけるとききっとなつかしい先生であり、愉快な友だちであり、やさしい父母だと改めて感ずるだろう。

二学期になり、涼しくなれば運動会もあろう。家庭にかえって父母兄弟と楽しい時ももてよう。元気で勉強を始めてください。そして勇気をもって、けなげな良い子になるための努力をしてください

――これは、私が八月末、輝北町の上場高原という海抜六百メートルの山上で、キャンプをしていた三十人近い加治木のボーイスカウトを慰問した夜の話しだ――。

輝北町百引の南西側へ国道から入り込んで、約六キロぐらい登った所に三百ヘクタールの部落有林がある。山林ではなく、なだらかな牧場だ。ここに加治木のボーイスカウト二団から三十人近くが四泊のキャンプをしていた。実に整然ときまりを守って生活して、隊長さんの指導で寝起きした。私は数時間、滞在しただけだが、彼らが人里はなれた所で、おたがい語り合い作業をし、炊事をし、掃除をして、また歌ったり競技をしたりした友情は生涯、断ち切れないものとなろう――と思うのだった

私は彼らが就寝時間にもなったので、くら闇の中を降りはじめた子どもたちは小路に皆一列に並んで、名残りを惜しんでくれた。

この夏は暑かった。夏まつり、太鼓おどりは例年になく盛んだった。しかし台風のつめ跡はいたましい。小山田、辺川、西別府方面の通路、田んぼ、橋はめちゃくちゃだ。被害を受けられたかたがたに同情する。町も国や県のお力をかりて、可能な限り復旧に努力しよう。原形以上に何とかしておくことが望ましい。さてどうしたものかと考え続ける。

キャンプ村の少年のように、みな力を合わせてかかろうと、文字どおり闇中模索して山を降りる、私だった。